

# 第1章

## 札幌市青少年科学館活用基本構想策定の趣旨

### 1 構想策定の背景

札幌市青少年科学館（以下「科学館」という。）は、北方圏の拠点都市・札幌の特色を踏まえ、「宇宙・北方圏・原理応用」を展示テーマとした理工系の科学博物館であり、科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通して創造性豊かな青少年の育成を図ることを目的として、昭和56年10月に開館しました。

開館から36年が経過した今も、小中学生をはじめ幅広い世代の方から親しまれています。このことは、科学館が「見て、触れて、考える」という展示コンセプトのもと、各種事業や特別展などを通じて利用者の興味・関心を維持するとともに、利用者に対し科学を楽しく体験的に学べるようにしてきた成果といえます。

一方で、少子高齢化や人口減少、グローバル化の進行、情報産業の発展など社会経済情勢が急激に変化している中、科学館を取り巻く環境も大きく変化しています。

更に、科学館全体の展示物の老朽化が進んでおり、都度、部分的な更新や改修を重ねてきたところですが、科学館全体としての統一感が薄まり、展示物相互の関係性が伝わりにくい状況となっています。また、科学技術の急速な進歩に伴い、時代にそぐわない展示物があるという課題も生じています。

このような状況から、平成22年3月には札幌市社会教育委員会議から今後の科学館の展示物の在り方について、「青少年の学習の場として、また、生涯学習の学びの場として重要不可欠な施設であり、青少年はもとより、幼児からお年寄りまで、広く市民が科学について楽しく学べる場として、常に魅力的な施設であるべき」との答申を受けています。

また、平成26年度に実施した「札幌市青少年科学館を活用した理科教育推進の在り方検討調査」の中の有識者会議では、「学校教育との連携強化や児童生徒の興味や探究心を高める理科授業構築のための取組の強化、科学的リテラシーを育む機能の充実を重点テーマとすべき」との意見が示されたほか、新学習指導要領でも、「理数教育の充実」が重視されています。

このほか、札幌市が平成26年度に策定した「新さっぽろ駅周辺地区まちづくり計画」において、科学館の周辺に、教育関連施設や医療・商業施設等の建設が予定されていることから、周辺地区との一体的なまちづくりにおける科学館のあり方も併せて検討する必要があります。

## 2 構想の目的

以上のことを踏まえ、科学館の今後の在り方を明らかにするとともに、展示物や施設設備の更新等に当たっての基本的な考え方を整理することを目的に、札幌市青少年科学館活用基本構想を策定します。

## 3 構想の位置付け

札幌市教育委員会では、教育に関する施策を総合的に示す上位計画として「札幌市教育振興基本計画」を策定しています。本構想は、札幌市教育振興基本計画に掲げた教育の目標や方向性を踏まえつつ、科学館の今後の在り方を明らかにするものです。

また、札幌市のまちづくりに関する最上位の計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（平成25年（2013年）策定）や、それに基づく個別計画として生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を示した「第3次札幌市生涯学習推進構想」など、関連する各種計画等との整合を図ります。

